

国際シンポジウム
トランスナショナル化と国境/境界規制
北米・EU・日本の比較
2018年10月27日(土)～28日(日)
一橋大学・国立西キャンパス・インテリジェントホール
日英同時通訳付

- 【主催】 一橋大学国際社会学プログラム
 科研プロジェクト(基盤研究 A「移民・難民選別システムの重層的再編成」)
- 【共催】 一橋大学・大学院社会学研究科
- 【後援】 Hitotsubashi University International Fellow Program Inbound
 科学研究費(若手研究 B「国境管理における EU と NGO のパートナーシップ」、
 基盤研究 B「社会的境界研究の構築と移民トランスナショナリズムへの応用」)
 移民政策学会
- 【助成】 公益財団法人 野村財団

1 日目		10月27日(土)
10:30-10:45	オープニング	小井土彰宏(一橋大学) 趣旨説明
10:45-12:00	【基調講演】「(不)道徳的政体の中での強制された移住と移民研究の公共的役割」 トマス・ファイスト(ビーレフェルト大学) 質疑	
12:00-13:30	昼食休憩	
13:30-15:45	【第1部】 北米: トランスナショナル空間と移民管理レジームの厳格化 * 司会: 南川文里(立命館大学) 1. ロバート・C・スミス(ニューヨーク市立大学) 「DACA[暫定的合法化措置]と法律的身分の長期的影響——地方環境差と連邦移民政策変動の横断/時系列分析」 2. ラファエル・アラルコン(メキシコ北部国境大学院大学) 「合衆国からのメキシコ移民の大量送還と強制された越境家族の出現」 3. 飯尾真貴子(一橋大学大学院) 「国境を超える米国移民管理レジームの社会的影響—オアハカとカリフォルニアのトランスナショナルな先住民コミュニティを事例として」 * 討論者: 小井土彰宏(一橋大学)	
16:00-18:30	【第2部】 EU: 共通外部国境政策と移民/難民選別 * 司会: 柄谷利恵子(関西大学) 1. エレーナ・サンチェス(バルセロナ国際問題研究所) 「要塞化された難民の緩衝地帯の構築——西バルカンルート」の事例」 2. パオロ・クッチッタ(アムステルダム自由大学) 「"人道空間"としての中東地中海境界地帯——内包と排除の移民管理」 3. 錦田愛子(東京外国語大学) 「トランスナショナル家族の生存戦略—国境管理が EU 諸国への移民に与える影響—」 * 討論者: 伊藤るり(津田塾大学)	
2 日目		10月28日(日)
13:30-16:15	【第3部】 日本: 「移民政策」なき入管体制とトランスナショナル関係の多面的拡張 * 司会: 小井土彰宏(一橋大学) 1. 小井土彰宏(一橋大学) 「日本における“移民政策”の概況: 正統化、分断化、遅ればせながらの転換」 2. 惠羅さとみ(成蹊大学) 「首都再開発ブームと拡大する外国人建設労働者——東京 2020 とトランスナショナルな労働市場形成」 3. 眞住優助(金沢大学) 「日本における留学生の労働市場への編入—南・東南アジア出身学生は事実上の低技能労働者か、高技能労働者予備軍か、あるいはその両者か?」 4. 塩原良和(慶應義塾大学) 「出入国管理政策と社会統合政策の相互浸透?: 現代日本における「多文化共生」施策の展開」 * 討論者: トマス・ファイスト(ビーレフェルト大学)、ロバート・C・スミス(ニューヨーク市立大学)	
16:15-16:30	休憩	
16:30-18:40	【第4部】 総括討論—地域間比較と日本の移民政策の今後 * 司会: 森千香子(一橋大学) 1. 地域からの発見と地域間対話 2. 転換する日本の政策の今後と提言 閉会のことば	

【シンポジウムの趣旨】

一橋大学・社会学研究科・国際社会学プログラムでは、きたる10月27日(土)・28日の2日間、国際シンポジウムを「トランスナショナル化と国境/境界規制」Border/Boundary Control in the Age of Transnationalizationと題して、現在深刻化するトランスナショナル社会空間と、国境のみならず広い意味での社会境界管理強化との深化する矛盾を巡る諸問題を検討します。このために、国際社会学プログラムを拠点とした科学研究費基盤研究(A)「移民難民システムの重層的再編成」の最終年度の企画としての、国際研究交流と発信の会議です。

このために、ビーレフェルト大学のトマス・ファイト教授をはじめとして北米、EU からトランスナショナル研究と国境研究における第一線の研究者を招き、国際的研究の最前線の成果を報告いただくとともに、科学研究費プロジェクトメンバーの報告を合わせて行う機会とします。

トランプ政権の誕生と反移民政策、EU における大量難民への対応の混迷など、状況の錯綜とする中、国際的な最新状況の正確な分析を内外の研究者が報告するとともに、急激に変動する日本における政策とその引き起こしつつあるトランスナショナルな関係性の今後について、日本の研究者の報告をもとに、海外の移民研究者とともに、今後の日本の政策について考える機会としたいと思います。

科研プロジェクト(基盤研究(A))

- 研究課題名: 移民・難民選別システムの重層的再編成——9ヶ国の国際比較と越境的構造分析(課題番号:16H02042)
- 研究期間: 2016~18年度
- 研究代表者: 小井土彰宏(一橋大学)
- 研究分担者: 伊藤るり(津田塾大学)、恵羅さとみ(成蹊大学)、柄谷利恵子(関西大学)、上林千恵子(法政大学)、塩原良和(慶應義塾大学)、秦泉寺有紀(和洋女子大学)、鈴木江理子(国土館大学)、昔農英明(明治大学)、宣元錫(大阪法科経済大学)、堀井里子(国際教養大学)
- 研究協力者: 久保山亮(専修大学)、飯尾真貴子(一橋大学院)
- リサーチアシスタント: 上野貴彦、張雅晴(以上、一橋大学院)

● 問い合わせ先

事務局: 政治学・国際社会学共同研究室

Tel: 03-580-8803 /email: trans_soci@soc.hit-u.ac.jp

一橋大学・大学院社会学研究科・国際社会学プログラム WEB サイト: http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans_soci/